

## 生活技能構造の教育実験的研究 (1)

—並縫い技能の検討—

大妻女子大家政 ○武川 素子 大妻女子大人間生活科学研 大澤 清二

【目的】近年では学生の生活技術能力、特にファインモータースキルとしての手指の巧緻性の低下が指摘されている。手縫いの中で最も基本的かつ重要な技能である並縫いは、家庭科教育では小学校で学習することになっているにもかかわらず、この技能を習得していない学生が多いのではないだろうか。このような問題意識から以下の問題について検討した。

本研究では ①学生の並縫い技能に関する自己評価と実際の技能との差異

②並縫い技能の指導効果

③被服製作のレディネスと並縫い動作及び並縫いパフォーマンスとの関係

【方法】短期大学生100名を対象として平成6年10月に、被服製作等に関するアンケートならびに並縫いの調査を行った。

並縫い1回目は学生に各自自由に縫わせ、その後正しい並縫い方法を指導し1週間後に2回目の調査を行った。針は木綿縫い針3の2、糸はカタン30番(黒)を用い、用布は並幅の晒木綿100cmの長さを幅二つ折りにして用いた。

【結果】調査の結果以下のことが明らかになった。

①並縫い技能・動作に関する自己評価と実際の技能との間には大きな差が見られた

②指導前、指ぬきを用いて正しい方法で並縫いを行った学生はほとんど見られなかった。指導後には縫ったパフォーマンス量は低下したが全員が指ぬきを用いて正しい方法で縫えるようになるなどスキルスコアは有意に向上した。

③並縫い動作と並縫いの結果等の間には互いに相関関係が認められた。